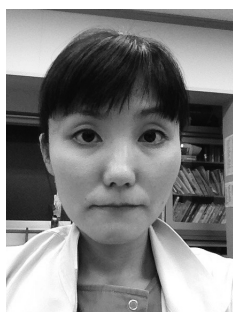


総合研究奨励賞 (結城賞)



半井 明日香

略 歴

昭和54年12月17日生
平成17年3月 高知大学医学部卒業
平成26年3月 高知大学医学部大学院修了見込み
平成17年3月 高知大学医学部医学科卒業
平成17年4月 岡山労災病院 初期研修医
平成19年4月 広島市立広島市民病院 内科後期研修医
平成23年4月 岡山大学医学部附属病院消化器内科 医員
現在に至る

研究論文内容要旨

近年、潰瘍性大腸炎（UC）の治療目標として粘膜治癒の重要性が指摘されている。粘膜治癒の判定には下部消化管内視鏡検査（CS）が必要であるが、様々な面での患者への負担は否めない。一方、本邦の大腸癌検診で行われる定量的免疫学的便潜血検査（FIT）は、便を採取するだけの簡便な手法で便中の血液を定量的に検出できる。従って、FITを行うことによりUCの粘膜状態を非侵襲的に評価できる可能性がある。そこで我々は、CSを行うUC患者に対しFITを行い、FITにて粘膜治癒を評価できるか検討した。CSの粘膜所見はMayoの内視鏡スコア（Mayo 0～3、0は正常、3が最強炎症）を用いて判定し、Mayo 0を粘膜治癒と定義した。

検討の結果、Mayoスコア別FIT陰性（<100ng/ml）の割合はMayo 0：44/48（91.7%）、Mayo 1：65/123（52.8%）、Mayo 2：14/106（13.2%）、Mayo 3：4/33（12.1%）であり、粘膜治癒症例のほとんどはFIT陰性であり、FIT陰性者の割合は粘膜炎症の程度と相関していた。また、FIT陰性の場合の粘膜治癒の検出率は感度0.92、特異度0.97であり、FITはUCの粘膜治癒の予測に有用であり、非侵襲的粘膜治癒評価法となりうると考えられた。